



文稿
天明三年九月記

服部之立草稿
文稿
天明三年九月記

服部文庫
イ 17
2113
11





117 特
2113
11

△文信天朝癸卯九月十日記

○檢氏望月也 旅川局名也 ○元立

望月橋。自外望之。舍也。似樓。一橋。
似三石之石。中陸橋。事上意。石以吃
有土籍。守研。修。家。新。及。厨。石。多。也。
物。自。字。用。中。東。石。諸。如。之。一。色。
似。江。海。之。如。外。公。田。與。林。多。種。
多。手。林。早。去。美。善。也。小。石。竹。樹。
勢。成。山。一。垣。造。板。在。隔。市。井。

不取

△製。以。生。君。及。一。本。其。實。一。一。也。也。也。

晴。出。去。石。下。竹。樹。

字例
○是。之。也。一。一。在。于。下。風。陸。更。以。故。存。在。亦。文。



册二水灘 △兩岸圖序 應蓋同世于市而蓋本有兩
岸一覽者形刻也世于使家長
畫工圖之而丹音同也
 武統二州之自有大行自海口十餘里距
 專節星水共。有長橋四。海口共曰永什橋。
 次大橋次兩國。次我妻。其間分流數所。通于
 東西。有萬里船共。有漁釣共。有轉運共。而
 泛江者。或樓船。負鵬鯢之樂。或誇下。每行
 鳩之娛。或聞風。詠声清光。各道遠自通。逐
 時賞。最細原為盛。故樂在訪船。岸上
 灯火相照。以紅結日。而兩岸家般人足。公
 候。不棄。楚隨。橋上雙弄子。連袂成帷。與

袖成真。往來雜沓。實如大道。然幽邃有趣。
 則在墨中云。此畫甚佳。又何言哉。
 忘夫不能輒出遊之人。遊目於此。其如指
 掌。光画之有益。果然其哉。姑記以為序。
 元雅作
 △路是世于見命 右元云云
 此三軸本圖兩岸之勝。而所以序。寧不及
 他事也。蓋以有所因故。画亦不生新意。宜
 樂其樂。真其真。不向雅俗。以辟言。法觀樂。
 識其名。其真事而說之。炳如丹青。乃此卷
 之志。視而觀之。泛江者亦不困云。
 右天。丁。丁。年。月。日。右服元雅

不
 △...生...
 昭
 ...
 ...

小幡世子墓誌銘
宣和元年己酉六月廿五日
墓主神主

小幡世子諱忠房字一。小字定太郎。小幡
氏。福通子。母氏。平壹。收產資順女。明
和二年乙酉四月十六日生。世子辰巳卯。年
十。六歲始謁見。於淡廟。獻御犬。及馬。賞
白金壹枚。御後威卷。以家例。俸朝。帝鑑
班。安永九年壬子八月十八日。叙爵。從五位下。以林
半女正。二十日朝。御黑之院。獻御犬。及馬。賞
白金壹枚。蓋奉叙。叙。海。恩。存。於。元
年。百。方。之。勝。卒。于。安。元。卯。實。年。八。以。元

年巳酉五月十日。年二十有五。葬于牛嶋弘福
寺先學域。嗚呼。末如之何者。余也。知末如之何
者。世也。為不。破。已。老。情。也。世。子。天。性。孝。友。愛
人。寔。物。故。及。厥。疾。不。瘳。雖。屬。醫。有。私。禱
而。不。起。者。况。耶。臣。官。客。情。之。所。鍾。亦。已。
已。不。多。矣。好。服。家。學。可。同。經。于。之。云。又
心。賦。詩。為。賦。思。敏。強。記。故。於。文。武。所。習。夙。解
其。善。也。了。不。之。年。年。五。八。中。街。云。娶。相。馬。因。德
後。得。怨。胤。女。公。子。未。子。離。而。女。子。子。病。物。七。年
丁。未。日。月。日。再。娶。故。同。神。友。後。得。胤。女。公。子
實。今。同。神。友。後。得。胤。女。公。子。也。以。神。友。子
之。女。九。年。巳。酉。二。月。二。日。言。天。物。葬。于。牛。嶋。弘。福。寺。

不
△
昭
△
昭
△
昭

特 117
2113
11

〇為為為

新正新其

其其

日嶺路
春望
為清安通海路
多思君上如多上
...

以五十町五里
城西二十里
鏡川

州
照水之鯨洲

之...
...

猶...

...

恬

尔

...

...

手紙... 〇不(之)

以五十町五里

城西二十里

鏡川

土州

高知城下 雅名

湖江ノ堤ヲ云

東 五里山下

白鷺洲

南 玄支島

桃林堤

城ト五里ト

城ト五里ト

城南ノ川 潮江水

下流自豊洲ヲ也

城北ニ 阿蘇野

阿波 阿蘇野

土佐 阿波

甲浦

是ノ城正三千里ナリ

多ク城亦而内也

遠ニ至

母貫之ハ 城東北五十町ト云 比惠ト云

西ニ居

土佐日記ニこれのとの土丹の... 一のひの城の時よくしと

そのの年也 延長ハヨリを年ノ朱首義平四年甲午トアリ

御書

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

△いさつにのくに記はくある人あり

卷之四

丁卯之秋

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

117 特
2113
||

日惟政

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a record, covering the right page of the manuscript.

宦之序

若惟君及子直于我... 測而和商款... 無大式秋年... 五月某... 費之賜... 以獲... 則不... 損... 左右... 不... 立... 日... 宦之序

◎年... 姑存于此中

日恒路
春
品性

位身是也

筆

字

花

片

方

了

[Faint background text and bleed-through from the reverse side of the page]

○純真三會地指海○淨業自社 此象

上界 金牙 善頂 妙

四象 瞻仰 祇園 偃松 宝界

兜率 梅檀 心印 色香 法緣 妙

如多曼現 咸非 人天 慈海

淨藏 妙之 華及 恒河 恒河 妙之 妙之

似久人 似久人 似久人 似久人

大聖林 妙之 妙之 妙之 妙之

有世界 有世界 有世界 有世界

上仙 上仙 上仙 上仙

